

会 議 録

会 議 名	令和6年度文化によるまちづくり推進委員会（第2回）	
開 催 日 時	令和7年3月5日（水） 18時00分～19時30分	
開 催 場 所	市役所3階 大会議室	
出 席 者	岸田 茂、比嘉 朝康、西村 裕文、東原 秀一、 縄田 也千、伊藤 久美子、穂本 真一、脇本 忠典、 竹内 道子、伊達 洋二、塩田 賢二	委 員 数 15人 出席者数 11人 欠席者数 4人
欠 席 者	齋藤 大二郎、廣田 由実、日高 巧一朗、松永 進	
事務担当課 及び職員	協創部文化スポーツ推進課 文化スポーツ推進課：原田課長、別府係長、桑原	
会 議 次 第	1 委員長あいさつ 2 報告事項 文化芸術データベース作成の進捗状況について 3 議題 （1）前期行動計画の進捗状況について （2）評価軸の調査・検討について （3）令和6年度及び令和7年度の予算について 4 その他	
事務局	次第2 報告事項 文化芸術データベース作成の進捗状況について 令和6年度第1回目の委員会において、文化芸術データベースに関して協議を行い、文化協会が保有している情報を協会員に許可を得たうえで市に提供していただき、市のホームページ上にその情報を掲載することによって、芸術文化団体の見える化を図るという話になった。 そのため、この件に関して、只今文化協会事務局長である委員の方にご尽力いただいておりますので、経過報告をしていただければと思う。	
委員	令和6年12月7日に行われた文化協会の第4回常任理事会において、各部門の代表に諮り、1月～2月に行われた部門会議で各団体に情報掲載の許可および掲載内容について確認していただいた。しかし、一度持ち帰り、団内での協議を行う団体や会議に欠席した団体も多く、現状ではあまり情報が集まっていない。 そこで提案だが、文化協会の総会資料にそれぞれの団体の情報が記載されているので、こちらを使用するのはどうか。掲載情報に関しては、団体名・代表者・住所となっており、電話番号やメールアドレスといった情報は記載されていない。	

委員長	総会資料は公開資料として扱ってよいのか。
委員	大丈夫だ。
委員長	ならば、その情報をデータベースに使用するという事でどうだろうか。電話番号やメールアドレスといった情報は、後日それぞれの団体に直接問い合わせを行い、掲載するという事でいいのではないか。各団体にとっても、団体情報をホームページに掲載することについては、一つの宣伝材料になると思われるため、ぜひ各団体にご協力いただければと思う。
委員	私自身のデータベースについての認識は、当委員会における委員及び事務局が市内の芸術文化団体に係る情報を共有することが第一段階だと思っているため、公に情報を公開することは次の段階のものではないか。正直、私自身が市内の芸術文化団体の全容を把握できていない。委員の中でも情報量の差があるので、委員会で議論する上で、元となるデータベースを作成することがまず先ではないのか。
委員長	情報を早く公開するのか、公開前に一度委員会内でステップを踏むのか、という進め方の問題だと思うが、これについて意見がある人はいるか。
委員	私自身、文化協会の音楽部門の常任理事を務めており、部門会議にて各団体に対して情報掲載の許可および掲載内容について諮ったが、一度当委員会で精査して公開という認識だったため、すぐに公開されるとは伝えていない。ただ、部門会議では、ホームページ等に掲載していただくと宣伝になって効果的だという前向きな意見が多く見受けられた。また、文化協会だけでなく、地域交流センターでも多くの団体が活動されているため、次の段階としては、そちらの情報を集めるというのはどうか。
委員	文化協会が当委員会の下部に属しているのであれば、情報公開に向けた協議が必要になってくるのではないかとと思うが、文化協会としての取組みが当委員会にも係わってくるものだという意味合いであれば、協議する必要はないのではないか。
委員長	まず根本として、当委員会において情報が足りていないため、データベースの作成が始まったと思うが、たまたま文化協会に所属団体が多いため、今回の委員会にて情報を提供するといった流れだったと思う。これを利用し、協議し、何らかの形で公開すれば、追従して情報を出す団体がいるのではないかという期待を持っている状況が現在の立ち位置だ

	と思うがどうか。
委員	文化協会の情報だけでなく、地域交流センターに所属している団体も加えてみてはどうか。
委員	議論をするうえで、どういう団体が、どういう活動を、何人で行っているのかという簡単な情報があればいいのかなと思う。そのため、電話番号やメールアドレスといったものは後から問い合わせをすればよいのではないか。これらを聞かないといけないと思っているから話が進んでない。地域交流センターについても、団体が活動する際に各地域交流センターに届け出を提出していると思われるので、各センター長に、詳細な団体情報ではなく、簡単な団体情報を問い合わせれば、そこまで手間ではないと思う。
委員	言われるとおり、議論の際に使用する一覧表が欲しいと思う。それをどうジャンルに分けるかという協議もできるようになる。
委員長	それでは、これからの動きについてだが、まず文化協会の総会が5月に行われるため、それに使用する資料を用いてデータベースを作成してみてもどうか。
事務局	次年度の当委員会は7月を開催予定としているので、文化協会及び地域交流センターのデータも準備しておく。
委員長	承知した。
事務局	前回の委員会で話の上がった、教育委員会が保有していた文化団体の講師一覧の冊子について報告だが、現在の社会教育課の方や、以前に所属されていた方等に、冊子が現存するものかどうかを確認したが、見つかっていない。
委員	承知した。
	次第3 議題 (1) 前期行動計画の進捗状況について 資料1に沿って説明。
委員	実績値だけでなく、目標値を併記すると分かりやすい。
事務局	承知した。

事務局	(2) 評価軸の調査・検討について 前期行動計画に記載の「独自評価の実施」の箇所において、令和6年度より評価軸の調査を行う予定となっているが、評価指標において、現状の数値でよいのかどうか委員の皆様にご意見を伺いたい。
委員	評価軸については、山陽小野田市文化振興ビジョンに、「客観的・多角的な視点を持つ評価者による検証が必要」と記載されており、また、前期行動計画には、「他の事例等を参考にした上で、独自の評価軸を検討し、事業推進に活用していく」と記載されていることから、現状の定量的なものに加え定性的なものも評価していく必要があるのではないかと感じる。
委員長	要するに、数字だけの評価だけでは足りないということか。
委員	仰るとおりだ。芸術文化については、数字だけでは評価を表せないものがあるため、かなり難しいと感じる。
委員	定量的な評価をK P I（評価指標）で管理することは良いことだと思うが、本来の目的に対して、本当に必要な指標なのかを精査する必要があるのではないか。
委員	資料に記載の事業に対して、例えば、ゴスペルイベントや月亭方正落語会においての入場者数等が記載されていないのが気になる。 やはり入場者数等といったものは重要であり、活性化を目指すのであれば、何人の人に文化芸術を体験・体感してもらったかを明確に指標に残すことが大切だと感じる。その指標をもとにすると、K P Iに関しても変更する点が出てくるのではないかと感じる。
事務局	念のためお伝えすると、月亭方正落語会に関しては、市内小学6年生を対象としたものであるので、毎年度の市内小学6年生の数字を反映することになるが、よろしいか。
委員	それで大丈夫だ。毎年、何人の子どもたちに触れていただいているのかも知りたい情報だ。
委員長	たしかに入場者数等に関しては、多ければ多いほど、その事業に対して反響があったことが明確になる。 ただ、満足度をはかるとなると入場者数だけ見ても分からないように感じる。一つの例だが、昨年に文化協会が主催で開催した「ドヴォルザーク

事務局	ク 新世界より」において、約700席数に対してアンケート提出数が400枚以上あった。通常であれば10～20枚程度なので、この事業に対しての満足度を実感することができた。 総括すると、元々、文化振興ビジョンが作成された経緯としては、行政が文化を推進していくにあたって、行政のみではなく皆様方の意見も反映させながら、より良いものを芸術文化として振興していこうと1年かけて作成したものであり、その中でアクションプランがなかったため、前期行動計画も皆様と意見を調整させていただき、KPI等の指標を作成した。その中で、評価軸の部分において、この1年の間に実績を積んだうえで、ここに人数を記載したほうが良いや定性的評価を加えたほうが良いという指標があったうえで、改善に取り組むものだと感じているので、今回はいわゆる評価軸を改善する1回目という認識で意見をいただいたうえで、今後は正をしていけばよいのかなと感じている。
委員長	仰るとおりだ。私自身、山陽小野田市の芸術文化については着実に進歩しているのではないかと感じている。初めのころに比べれば、かなり分かりやすくなったと感じる、データベースなどという話は考えてもいなかったが、今では実現しそうなところまでできていることを実感している。 それで、評価軸について話を戻すが、満足度についてどういう手法ではかっていくのか意見はあるか。
委員	同じ事業を繰り返し開催し、事業の入場者数等が増えていけば、満足度は上がっているといえるのではないかな。もちろん単発事業を開催することも大切なことだが、文化芸術に関する満足をはかるうえでは継続して事業を開催することも大切だ。
委員	催しによって成功の定義が変わってくるのではないかな。例えば、一般の方向けの事業に関しては入場者数が成功のKPIになるかもしれないし、学校に訪問して行う事業に関しては、満足度がKPIになってくると考えられるため、取り組みごとに評価軸を定めることが必要になってくるのではないかなと思う。ただ、これに関しては時間がかなりかかってしまうことが問題だと感じる。
委員	アンケートも満足度をはかるツールとして有用だと思う。 学校の生徒たちにもアンケートを取りたいが、学校側に負担をかけてしまうため、難しいと感じる。
委員	タブレット等を活用できればいいのではないかな。

事務局	市の事業に関しては、それぞれアンケートを取っている。
委員	せっかくアンケートを取っているのに、その意見を今後の事業に反映させたいと毎度のことと思っているが、集計の手間があり中々実現できていない。
委員	アンケートを何のために取るかを今一度考え、いただいた意見を最大限に活かすことができるような仕組みづくりが必要ではないか。
委員長	そのとおりだ。ただ手間の問題が一番大きいと感じるので、この部分をどうにかしないといけない。
事務局	市の事業に関しては毎回集計を行っており、内部資料として保管している。
委員	ぜひ拝見させていただきたい。
事務局	承知した。次回の委員会での資料として提出させていただく。
委員	市民が芸術文化に対して関心を向けているのかどうかを知るために、毎年度とはいかないにせよ、行動計画の区分ごとに市民全体のアンケートを実施するのはどうか。
事務局	市の総合計画の中期が来年に終了するにあたり、後期の前半にアンケートを実施する予定となっているため、こちらを活用するのはどうか。
委員長	母数もかなり大きいと思うので、それで良いと思う。
委員	話は変わるが、資料1の基本目標④の文化協会における評価指標についてだが、加入団体数も加入者数に関しても、目標値に達成することはかなり厳しいと感じている。やはり、今の若者が芸術文化に対して興味がないことが顕著に表われている。現在は趣味においても多岐にわたっており芸術文化が入り込むすきがないように思う。ただ、これを仕方がないで終わらしては良くないので、何か考えていかないといけない。
委員長	本当にそのとおりだ。一つの例で邦楽を挙げさせていただく。残念だが、山陽小野田市において邦楽の普及率に関してはかなり低いものだ。しかし、隣市である宇部での普及率はかなり高いものになっている。これは、

	著名な審査員のコンクールを開催するという仕掛けをすることによるもので、多くの若い方が興味を示している。以前に文化協会主催で箏のコンサートを開催したときに、出演者が「宇部市にあこがれる、審査員になりたい」ということを口にした。山陽小野田市と隣市の宇部でもこんなにも違うものなのかと本当に驚いた出来事だった。やはり、それぞれの芸術文化を普及させるためには、何か仕掛けづくりをすることが必要だなと思ったとともに、改めて勉強をしないといけないなと実感した。
委員	幼少期から邦楽に多くの人が触れているのか。
委員長	そうだ。
委員	邦楽ではないが、山陽小野田市の合唱団において子どもたちの部員が減少している。そもそも学校に合唱部がなく、高等学校でも合唱部の活動ができなくなっているのが現状だ。そもそも子どもたちが忙しく、芸術文化に対する優先順位が下がっていると感じる。
委員	市の音楽会があったころは、学校でも音楽に力を入れていたが、今はもうやっておらず、また、発表する機会もないので、特別に音楽に力を入れるということとはなくなった。ただ、クラブ活動などで華道等を地域の方々に教えていただいたりしている。幼少期に様々な体験をするということは、芸術文化の振興に繋がっていくと学校側でも認識しているので、今後も同様の活動を続けていければと思っている。また、山陽小野田市にはかるたやピアノマラソンといった売りがあるので、その部分にさらに力を入れていただければ、そこからまた広がるものもあると思う。 宇部市での経験だが、小学校での音楽の授業を使って和楽器に触れるといったものや、書道協会の方が10名程来られ全校一斉に書初めをするといった行事を開催していた。昔は当たり前のようにやっていたものが今では中々触れることができないため、特別なことを大きく開催するのも悪くないが、地道に昔ながらのものを子供たちに体験させていくことのほうが重要ではないかと思う。
委員	それを踏まえて、データベースの作成が急がれる。学校側が子どもたちに芸術文化に触れてもらおうとする際に、データベースがあれば簡単に依頼したい分野の方を調べることができるようになる。
委員	現在は地域の方にも参加していただいているが、まだまだ情報が限られているので、データベースがあればありがたい。やはり、子どもたちにとってみれば、大きい行事を開催することよりも、日常生活に溶け込んだもの

	の方が落とし込みはしやすいと感じる。 (3) 令和6年度及び令和7年度の予算について 資料2に沿って説明。
委員	令和6年度において当初予算の記載になっているが、予定通り使用したという認識でよろしいか。
事務局	決算については、次回の委員会にて公表するつもりだ。ただ、現状において予算取りをした事業に関しては、開催していないものはない。
委員	資料2-25の「ガラスアート作品貸出し支援事業」の予算において、令和7年度ではかなり増額しているが、これは20点貸出しという目標に向けたものなのか。
事務局	これは、今まで別予算であった「市所蔵ガラスアート作品動産総合保険」が来年度より同じ予算に入ったために増額したものだ。そのため、「ガラスアート作品貸出し支援事業」に係る予算金額に変更はない。
委員	となれば、来年度もガラスアート作品の貸出し件数は年間4～5件ほどになるのではないか。
事務局	目標は20点貸出しで問題ない。ただ、ガラスケースを10台しか持ち合わせていないため、こちらをどのように活用するかが課題。ガラスケースに関しては、現在、小野田商業開発（おのだサンパーク）に1台、日本化薬株式会社厚狭工場に2台、BASF戸田バッテリーマテリアルズ合同会社に1台、田辺三菱製薬工場株式会社に1台の計5台を使用しており、ガラスケース付きの貸出しとなるとかなり数が限られている状況である。 そのため、ガラス作品のみでの貸出しをするために、要項を改正したところではあるが、まだまだ行き届いていない。ガラス作品に関しては、まだまだ多くのものを貸出し出来る状況であるので、これから広く展開できればと思う。
委員	市として、推している文化芸術は「ガラス」と「かるた」という認識だと思うが、個人的な意見になるが、推すならばもっと予算をつけて欲しいと感じる。例えば「かるた」においても、かるたのまちを目指すならば、子どもたちがかるたの句を覚えているような状況を作り、中学、高校でもかるたに触れることが出来るような仕組みづくりを作れば、全国的に見ても山陽小野田市はかるたが盛んという認識になり、かるたのまちとよばれ

	るようになるのではないかと。ただ、言うのは簡単だが実行するのは難しいのは承知している。
委員長	かるた協会はかなり尽力している。小野田高校かるた部に関しても全国的に名が通る名門になっている。かるたに関しては着実に進歩していると感じる。
事務局	かるた振興については学校の協力も得ており、令和3年度から市内全小中学校を対象に出前教室を開催している。ただ、全学年ではなく1つの学年を対象に行っているため、毎年度全員にという訳にはいかないが、小学校・中学校段階でそれぞれ1回ずつは触れることが出来るような仕組みづくりは完成している。また、各小中学校に枚数は少ないかもしれないが、かるた札を配布している。さらに、市内幼保育園に関してもかるた出前事業を実施しており、半数近くの幼保育園より要望をいただいている状況である。また、ガラス振興に関しても、小学校において、一つの学年ではあるが、毎年度ガラス制作体験を行う事業も展開しているところだ。
委員	多くの事業を実施されていたことを知れて、勉強になった。
委員長	資料2-29「西川悟平 奇跡の7本指ピアニスト公演開催事業」について説明する。西川悟平氏は15歳という年齢からピアノをはじめ血のにじむような努力の末、ニューヨークのカーネギーホールにてリサイタルを実施した天才である。しかし、ジストニアという病気にかかってしまい指が動かなくなってしまった。懸命なリハビリの末、7本動かせるようになり、現在では国連70周年イベントでのソロ演奏や東京2020パラリンピック閉会式で演奏をするなど、再び世界的に活躍するピアニストに復活した。そんな大物が6月14日に不二輸送機ホールにおいてコンサートをしてくれるということなので、ぜひ委員の方には本物の音楽を体験してもらいたいので来場してほしいという宣伝をしておく。
委員	最後に指摘だが、資料2の1ページ目に記載の「基本施策36 芸術文化によるまちづくりの推進」という部分だが、正しくは「基本施策30 芸術文化によるまちづくりの推進」ではないか。
事務局	その通りだ。修正しておく。 次第4 その他
委員	1つ提案だが、データベース等の情報の整理・発信をしてくれる人材を「地

	域おこし協力隊」という制度を用い雇うのはどうか。もちろん、文化協会の方で情報の整理・発信をやっていただくということでも悪いわけではないが、発信が文化協会団体に偏ってしまうのではないかと感じる。あくまでも市が絡むことが、公平性のうえでは必要だと感じる。現在ラジオ局においては、地域おこし協力隊である西広ショータ氏に協力してもらい、観光協会が携わる事柄について発信をしてもらっているが、かなり効果が見える。そのため、ぜひ当委員会においても都会から1人呼び、協力してもらうのはどうか。
事務局	地域おこし協力隊については、色々と制度の問題もあるため、意見としていただいておく。
事務局	次回の全体の会議については、今年7月頃に改めて日程調整をさせていただくので、御協力をお願いしたい。 ～終了～

pp